

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・地元百貨店のオープンにより周辺商店街に活気が広がる。	
		コンビニ（店長）	・たばこ、酒類が好調に推移している。7月下旬からは冷やし中華やざるそばなどの冷めんも売れ始めており、明るい兆しがある。	
		乗用車販売店（総務担当）	・例年9～11月は需要の山ができる時期であるが、当社では市場の膨らみに加え、8、9月に高級なスポーツ多目的車やワゴンを発売する。この分野の市場は結構大きいので、販売の上乗せが期待できる。	
		観光型旅館（スタッフ）	・8月以降の予約は、本館では9月のみ前年割れとなっているが、それ以外の月は12月まで上回っている。ただ、温泉全体としては能登半島地震の風評被害の影響がまだまだ残っている。	
		通信会社（社員）	・携帯電話の新しい割引サービスを開始するため、販売量の増加が期待できる。	
	変わらない	百貨店（営業担当）	・来客数が増加する見込みはないが、家具やファッションでは秋の衣替えのような動きが多少見られるため、低下傾向に歯止めが掛かる。	
		スーパー（営業担当）	・夏の天候不順が影響する農作物不作による値上がりに加え、ガソリン価格の高騰による食品の買い控えなどが懸念材料である。	
		コンビニ（経営者）	・来客数は安定しており、これ以上悪くならないが、逆に大型キャンペーンや大型の新商品の発売がないと、良い方向へも展開しない。	
		家電量販店（経営者）	・テレビ以外の大型商品では新規需要、買い換え需要とも見込めない。特にパソコンは一進一退が続いている。	
		家電量販店（店長）	・客の購買傾向に目立った変化はない。やがて、商品の新旧入替え時期になるが、これといった新製品の発売予定もなく、現行商品のマイナ－チェンジばかりで、客にとって魅力がない。	
		乗用車販売店（経理担当）	・お盆休み等の長期休暇シーズンが待っているため、新車販売には厳しい時期となる。また秋の需要期も新型車等の効果はあるものの限定的で、大きな変化は期待しにくい。	
		高級レストラン（スタッフ）	・冷夏の年は飲料やステーキハウスの売上が伸びず、苦戦することが多い。特に明るい材料はない。	
		観光型旅館（経営者）	・参議院選挙も終わり、今後の客の動きに期待できるが、原油の高騰や天候の影響などで食材の仕入れ金額が上昇する。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・能登半島地震の影響が続いていることに加え、住民税増額の影響もすぐに回復するとは思えず、しばらくは利用客の減少が続く。	
		旅行代理店（従業員）	・参議院選挙の結果や地震災害の多発を受けて、前年実績を維持するのは極めて難しい。	
		タクシー運転手	・客は公共交通機関が動いている間に帰宅してしまうため、夜のタクシー利用は少ない。	
		通信会社（営業担当）	・ボーナス時期は終わったが、安い料金プランを軸に携帯電話の販売シェアは確保できる見通しである。	
		通信会社（役員）	・今後、年末商戦における大型デジタルテレビの一層の価格低下を期待して、例年この2～3か月は購入手控えの動きが見られるため、契約獲得の大きな伸びは期待できない。	
		競輪場（職員）	・大型連休やボーナス月及び地元のイベント開催時は売上高の回復傾向が見られるようになったが、それ以外の月は入場者数、売上共に低調に推移している。	
		住宅販売会社（従業員）	・展示場への来場客の多くは、地震への構造面や安全性に関心を示しており、今後これらに対する十分な説明が極めて重要である。	
		やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・相次ぐ地震により悪影響が出ている。また年金問題やガソリンの高騰など明るい兆しが見えない。一般消費者の購買意識が低下し、格差が更に広がりそうな気配がある。
			百貨店（売場担当）	・昨年、隣県で複合商業施設がオープンして以来、30代の来客数が若干減少し、この影響で売上が厳しくなり、現在も続いている。
			スーパー（総務担当）	・原油値上げの影響が、商品価格や物流にも波及し始めている。

		スーパー（総務担当）	・原油高騰による輸送費の増加から、商品価格が値上がりし、このため多少なりとも買い控え傾向が出てくる。
		衣料品専門店（経営者）	・ガソリンなどの値上がりや給与の手取り金額の減少などから、客の不景気感が広がっており、今後も買い控えが続く。
		乗用車販売店（経営者）	・高級ブランド車は景気の見通しに左右されやすい。明るい材料が出てこない、ますます厳しい状況となる。
		自動車備品販売店（従業員）	・ガソリン値上げの影響から、車に関する支出を極力抑えたいという動きが客に見られ、今後は必要最低限の消耗品や車検整備が中心となる。
		一般レストラン（スタッフ）	・世界的な株暴落、円安、ガソリンの値上げ、中国産食品の問題等で、食品及び生活必需品の値上げが予測され、消費の低迷とともに、店では経費増となる。
		スナック（経営者）	・業種格差の広がりに加え、相次ぐ地震の影響から、好況業種の客からも一部で良くない情報が聞かれるようになった。
		テーマパーク（職員）	・能登半島地震の風評被害の影響は徐々に落ち着くと思われる。しかし、中越沖地震を含めた地域全体の風評被害は年内いっぱいには残り、来客数は前年比約1割の減少と予想される。
		住宅販売会社（従業員）	・客からの需要が、中越沖地震と参議院選挙という悪材料により沈静化したため、この影響の程度が読めない。
	悪くなる	商店街（代表者）	・猛暑が予想されていたが、今のところ冷夏の感が強い。しかし、季節が1か月ずれているような感じもあり、8月以降に暑い日が続けば、一段と「出かけない、夏物はもう買わない」のパターンになりそうな気がする。
		スーパー（店長）	・住民税の増額、原材料の高騰による各商品の値上げ、ガソリン価格の値上がりなどの諸問題はすぐに解決できるとは思えない。当面、消費動向は悪化する。
		コンビニ（経営者）	・周辺の公共工事の減少から来客数が減っており、加えて住民税の増税、ガソリン価格の値上げなど、客の財布のひもは固くなる一方である。売上の増加は期待できない。
		住宅販売会社（従業員）	・原油高による資材の高騰と選挙後の金利引上げ予想のなかで、駆け込み需要どころか、例月に比べ折衝案件が減少している。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	税理士（所長）	・地元企業では、従来の公共事業頼りから徐々に脱皮しようという動きが見られる。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・国内の消費に力強さが欠けており、円安による輸出頼みの状態が続くと思われる。為替の変動リスクが高くなっている。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・IT関係など一部に在庫調整が終了し、増産に移っているが、業界全体を押し上げるまでの動きにはなっていない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・眼鏡市場では現在、中国製商品の品質問題が多発しているが、国内フレーム産地全体の仕事量は依然として減少傾向が続いている。ただし、下降スピードは一時と比べ、やや緩くなった。
		通信業（営業担当）	・通信分野の技術は飛躍的に伸びているが、末端の利用者側がフルに活用していないのが現状である。電話を始め、在庫管理としてのデータ送受信を行う程度の利用にとどまっており、特に中小企業ではまだホームページすら持たない会社もある。市場の活性化はまだ遠い。
		司法書士	・個人住宅の新築の動きが鈍い反面、分譲マンション新築の話が複数進行している。
やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・原料単価がますます高くなるのが明確になってきており、収益に更なる悪影響を与える。	
	プラスチック製品製造業（企画担当）	・原料が更に値上げ含みで、現に一部は値上がりしており、今後不安がある。	
	一般機械器具製造業（総務担当）	・機械設備も一段落の感があり、今後更なる生産設備の増強にブレーキが掛かる。	
	輸送業（配車担当）	・8月から軽油の値上がりが確実となっており、これをカバーするコスト削減にも限界があるため、収益の確保がますます難しくなる。	
	金融業（融資担当）	・所得税の増額、原油価格の上昇などの要因から、消費動向が悪化する。	
	悪くなる	建設業（経営者）	・参議院選挙での自民党の大敗により、公共事業に関するまともな議論がされなくなり、公共事業費削減に歯止めが掛かるのが更に遅れる。
雇用	良くなる	-	-

関連	やや良くなる	求人情報誌製作会社 (編集者)	・9月にオープンする大型百貨店の求人の採用状況があまり良くない現状から、今後、求人の動きが活発化する。
	変わらない	人材派遣会社(社員)	・企業の採用意欲は強いが、それに見合う人材は少ない。求人広告の効果も薄く、人材の確保に苦心している状況である。人材不足が今後の景気の足を引っ張りかねない。
		職業安定所(職員)	・新規求人数が減少しているが、新規求職者数も減少している。
		職業安定所(職員)	・事業主都合離職者の内容を見ると、景気拡張基調となっても業績が好転せず、企業整備によって離職する人が多い。
	民間職業紹介機関(経営者)	・地元百貨店のオープンによる特需求人はあるが、それ以外は求人・求職者数共に横ばい状態で推移する。	
やや悪くなる	職業安定所(職員)	・新規求人数はここ3か月間、前年比で減少傾向が続いている。	
悪くなる	-	-	-